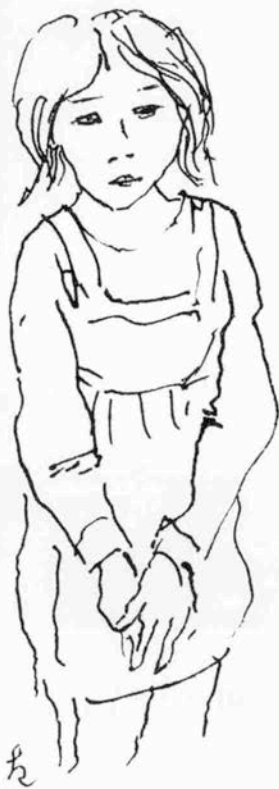


## □連載小説〈25〉

## まだ遅くない

葉月一郎  
え・小西保文(題字も)

## 使者ふたり

もう二度と会うことはあるまい。

心の奥で、かき消したはずの白い頬が花束の向こう側にある。それは、まるで天国からの使者のように冷厳な表情を崩さずに立っている……。

戸波の中に、なにか噴き出すものがあつた。

松岡さえいなかったら、飛び起き、走り寄って、室内へ導いただろう。そんな想いを辛くも押さえて、戸波は熱っぽい眼差を送った。

「どうも。ま、上がってください」

「でも……」

亜紀子は視線を松岡に送り、すぐに戻すと、かすかな笑みを浮かべた。

「お客さまのようですから、きようはここで……」  
あわてて松岡に眼配せする。新聞記者らしい敏感さで、

△あらずじ△ 神戸に君臨する大企業、兵庫製鉄(兵鉄)の公害をなくそうと、毎朝新聞神戸支局の石津支局長がキャンペーンを企画、取材をすすめていた。昭和四十五年秋のことだ。

仕事への情熱を失い、バーの女ユカとの情事におぼれていた戸波峻記者も、十年のキャリアを買われて参加する。たまたま酔客にからまれていたところを助けてやった兵鉄秘書課の細川亜紀子と親しくなり、亜紀子は会社首脳の新開社対策などをそのつど戸波に知らせて協力する。亜紀子の兄も記者だったが誤報事件のワナにかけられて自殺したのだった。兵鉄の花房総務部長らは二人の関係をかきつけ、亜紀子を工場勤務へと配置がえする。新聞社にも記事とりやめの申し入れをしらしく、支局長や泉田次長らは本社へ喚問され、キャンペーンは掲載直前に中止と決まる。

傷心の戸波は、その夜、亜紀子がひそかにアパート暮らしをしていることを知り、疑惑を深める。真相のつかめぬまま酒に溺れた戸波の帰宅を待っていたのは亜紀子だった。戸波は激情の中で亜紀子をなぐり暴力的に犯し、絶望のあまり退社願を提出。その夜、たまたま出会った花房総務部長にひやかされ、吸ううとして逆に路上に叩きつけられてしまう。一方、同僚の八木沢ら若手記者たちは、本社へ直訴してでも記事の掲載を実現しようと計画するが、居合わせた支局長らにとめられ、一応は不発に終わる。

松岡は何かを感じとったらしい。

「いや、僕は、もう用事が済みましたから失礼します。  
どうか、ごゆっくり」

急いで腰を上げると、あたふたと靴をはく。それでも眼に好奇のいろを精いっぱい浮かべながら松岡は出ていった。

男と女が残った。

花束を枕元に置く。静かにすわる。じっとみつめる。

——女の動作は、まるで能狂言の所作をそのまま写しとったようにみえる。

「ありがとう」

のどが、かすれた。

複雑な情感をこめて、視線を送る。

それが、どの程度、届いたのだろうか。女は全く別のことを口にした。

「会社の、花房総務部長の使いで参りました。」

「……………」

一瞬、耳を疑う。どういうことなのか。見舞いは、亜紀子の意志ではないのか。

「ゆうべのことはお互い、なかったことにしよう。そう伝えてくれ、ということでした」

どちらかという、切口上である。

それが、男をいらだたせた。

「そんなことは、どうでもいい。君は、君の意志で、来てくれたのと違うのか」

「それから、ケガの方は、どうか、お大事に。無理をなさらぬようにと伝えてくれと……………」

表情を崩さずに、女がつづける。その白い頬に、心なしか微笑が宿っているようにも見える。

戸波は、それを冷笑と受けとった。

思えば亜紀子は、一昨日の夜、ここで、なかば暴力的に犯した女なのだ。いま、ぶざまな縋帯姿で横たわっている男に対し、軽蔑や冷笑で報いたとしても、決して不自然ではない。

「君は……君はまだ怒っているんやな、一昨日のこと」  
物憂げに首を振って、女がつぶやく。

「それも、なかったことに、しましょう、ね」

（なかったこと——か）

新聞記者であったこと、公害キャンペーンに加わったこと……すべての過去を、風葬の国のなきがらのように棚ざらしにするつもりである。

だが、この心の揺れようは、何と説明したらいいのだろうか。

急に、亜紀子がすわり直した。

きちつと膝をそろえると、朗読調で話しかけてきた。

「私も、新しい生活に入りたい、と思っています。だから……」

だから、なかったことにしようというのか。そして、新しい生活とは、何を意味するのか。

「とにかく、今月いっぱい、会社、やめます。これからのことは、そのあとで、ゆっくり考えますわ」

「会社を、どうして……」

うろたえながら、辛うじて反問する。それに耳をかさずに亜紀子はつづけた。

「戸波さんのところで、公害のキャンペーンをとうとうやっていただけなかったこと。それだけが、心残りです。もし、あれが実現していたら……」

そこまで一気いいうと、急に亜紀子は言葉を切った。切ったとしかいいようのないほど、それは唐突であった。

「もし……記事になってたら……」

どうするというのだ。そう問い返そうとして、戸波は気づいた。

亜紀子の<sup>まだ</sup>頬が、ぬれているのだ。  
もう一言でも続けていたら、セキを切ったように涙が噴き出すに違いない。

必死にそれをこらえている、まるで幼女のような亜紀子の表情が大写しになった。

ひらめくものがあつた。

これは、やはり愛の告白というものであろう。

亜紀子は賭けていたに違いない。かつて兄の勤めていた毎朝新聞が、兵庫製鉄の公害キャンペーンに取り組む

かどうか。

もし実現していたら、おそらく彼

女は、身も心も投げかけ

ていただろう、主

要スタッフの一人

である、戸波

記者に――。

そういう賭

けがあったか

らこそ、危険

を承知で取材に協力

を惜しまなかったの

だ。公私の間で板ば

さみになりながら、

一つの姿勢を貫き通

したのではなからう

か。

「君を、裏切るような

結果になって、本当に済

まない」

悔恨の渦の中で、低くつぶ

やく。

その声が終わらぬうちに亜紀

子が体を投げかけてきた。ふと

んの上で横たわっている戸波に

激しく上半身を押した。

肩が泣いている。

嗚咽が声になって洩れてくる。

戸波は、暗然となった。

だれが悪いといえはいいのだろうか。

なにが、こんな結末を導き出したのだら

うか。

傷跡のうずく頭で、思いをめぐらせる。還ら

ぬ過去をたぐり寄せてみる。が、回答は出ない、



どうしても、出てこない。

そのうえ、告げなくてはならないことが、も

う一つあった。

「おれ、新聞社、辞めたよ」

だから、いずれにしても、もう

キャンペーンなどとは無縁の人間

なのだ。――重苦しい敗残者意識

をもて余しながら口にする。

一瞬、亜紀子の嗚咽が止まった。

そっと顔を上げて、戸波の表情

をうかがう。またたきもせずに、みつ

める。

引き裂かれた二つの心が、一点に駆け寄っ

て火花を散らし、再び遠ざかってゆく。もう

手の打ちようもないほど隔絶したところへ落

ちこんでしまうのを、お互いに意識する。

急に、つかげ下駄の音がした。

「ただいまア」

ドアが陽気にあいた。

ユカが戻ってきたのだ。

パケットが一本つき

出ている紙包み。そ

れに鉄砲ユリを一

束、ささげるよう

に持っている。

「おそくなって、

ごめんなさ

い。あら、お客

さんなの？」

初めて気付

いたように、

亜紀子へ視線

をやり、ニッ

と会釈する。



が、その表情に、いつもの、あの暖かさはない。

気まずい空気が流れ、よんだ。

亜紀子は、ゆっくりとすわりなおすと、「細川です」と  
小声で名乗った。

どう取りつくろったらいのだろうか——三人三様の  
戸惑いの中で、まずユカがおどけてみせる余裕を取り戻  
した。

「はじめまして、ユカちゃんです。お手伝いさん志願に  
来てますね」

それは、ホステス稼業で身についた、悲しい接客術の  
あらわれかもしれない。

戸波は、かすかに胸が痛んだ。ユカを哀れに思う。そ  
して、いまユカがいなければ、とも思う。

男のエゴイズムが、困惑の淵で溺れそうになってゆく。  
ユカは、それでも手早く台所に立った。お茶の支度で  
もするといふのだろうか。

亜紀子は、視線を泳がせたあと、再び戸波に戻した。

「なぜ会社をやめるの」「あのひとは誰なの」——瞳が、  
そう問いかけているようにもみえる。

戸波は、ひどい疲れを感じた。五体がバラバラになっ  
て、ふとんの中にめりこんで行くような重苦しい疲れ  
だった。

(難破船みたいだな)

うずく頭で、ぼんやりと思う。台風爪にひっかけら  
れて沈んだ、難破船の破片に過ぎないおのれを思う。

ユカが近づいた。

運んで来たのは、お茶ではなかった。粗末な、ありあ  
わせの花瓶にいけられた三本の鉄砲ユリだった。

「この辺が、いいかしら」

ひとりごとのようにいい、戸波に目で問いかけながら、  
枕元に置く。そこで、あらためて亜紀子の花束に気づい  
たような声を上げた。

「まあ、こんなに立派なお花を、たくさん頂いて……。  
どうも、すみません」

頭を下げてみせるユカに、亜紀子は会釈を返した。小  
さな火花が散った。

「あら、これ、兵庫製鉄から？」

ユカが叫ぶ。花束についているカードの名前に気付い  
たのだ。

「じゃ、あなた、兵鉄の人なのね」

「え、ことずかつて参りましたので……」

「そう、兵鉄の人なの」

あらためて亜紀子を見ると、ユカは対決でもするよう  
にすわり直した。そして、静かにいった。

「お願いします。兵庫製鉄の方は、もう、どなたも、戸  
波さんに近付かないでほしいのです。……この人、いま、  
とても疲れています。だから、仕事のことは、一切きり  
離してほしいのです」

うまくいえなくて、もどかしい。そんな表情をみせな  
がら、ユカはつづける。

「それに、この人、会社、やめるんです。もう辞表も出  
しています。いま一番この人に必要なのは、休養なの。  
ですから、お願いします。そっとしておいて欲しい……」  
表現は、うまくない。だが、拙いからこそ余計にユカ  
の心情をみる想いである。

戸波の心に、小さな感動めいたものが走った。

「お手伝い志願のユカちゃん」ではない。それは明ら  
かに、戸波の身内の人間の発言であった。

ある種の緊張感の中で、亜紀子が口を開いた。

「お邪魔しました。……この花束は置いて行きますか  
ら、どのようにでも処分してください」

ゆっくりと頭を下げると、長い髪をかき上げるように  
して背中へ振った。戸波と視線が合った。だが、もう何  
も語りあうことはない。そんな気がした。

ユカは、まるでこの部屋の主婦のように、亜紀子を送  
った。ドアのところ立って、いつまでも亜紀子の後ろ  
姿に視線を残していた。

豪華な花の香りだけが部屋を泳いでいる。しかし、心

の中の、ポツカリあいた風穴のように、花の香りもどこかむなし。

ユカが枕元へ戻ってきた。

まるで、職員室へ呼びつけられた小学生のように、おびえ、緊張しきった表情のまま正座した。

「戸波さん、ごめんなさい。私、悪かったわ。どうしてあんなこと、いつてしまったのかしら。でも、本当に、ごめんなさい」

いまにも泣きべそをかきそうに頬がゆがんでいる。

「なんだか、私、事情も何もわからないくせに、余計な口きいたみたい。かんにんしてね」

戸波は、不意に胸が熱くなった。

事情がわからないのではない。ユカは知っているのだ。知っているからこそ本能的に何かを感じとり、それを押さえきれずに口に出してしまっただ。

手をさしのべる。

きちんと両膝の上にそろえたユカの両手にそっと添えてやる。

「いいのや。気にすることなんか、なにもないよ」

「でも、わたし……」

半泣きのユカを、引き寄せる。崩折れてきた柔かい上半身を受けとめる。ふとんを隔てて抱きしめる。静かに髪を撫でてやる。

肩がふるえていた。

その涙は、決して悲しさからではあるまい。むしろ、ある喜びを秘めた涙かもしれない。

生暖かい情感が戸波をつつんだ。

ダメな男と、優しい女――。

この図式からは恐らく何も生まれてはこないだろう。だけど、それでいい、と戸波は思う。この生暖かさに、とっぷり顎まで浸っていたと思う。

「一緒に暮らそうか」

耳元に囁きかける。

「そうや。パーテンでも何でもいい。おれも仕事をみつ

けなきや」

ユカが、一瞬のうちに泣きやんだ。首に回した腕に力をこめてきた。

一週間が過ぎた。

十一月らしい六甲おろしの風が舞う朝、毎朝新聞神戸支局に三人の来訪者があった。

中年に近い男二人に女が一人まじっている。

うっそりと、猫背をいっそう曲げるようにして、先頭の男が受付の少年に声をかけた。

「戸波という記者さん、いるかね」

まるで「地獄の使者」みたいな印象を押しつけられて少年は戸惑った。

「あのう、いま、おりませんが……。どちらさんでしょう」

猫背は、陽焼けした頬を硬くすると、二、三秒、考えてから口を開いた。

「わし、金原というもんやが……。直接に会って、話したいことがあるんや」

「だれか、代りのものではないけませんか」

「そうやのう」

男は、連れの二人に視線を送り、軽く背きあった。

「それじゃ、支局長か誰か、とにかく責任者に会わせてもらおうか」

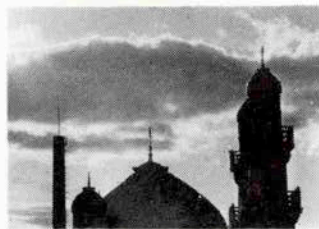
「支局長に？」

「ああ、兵庫製鉄のことについてじゃ、というてくれたらええ」

男の瞳が、鈍く、無気味に光った。

(つづく)

## talk and talk



＜神戸っ子愛読者サロン＞

★神戸っ子みなさんお元気？

2日PM5:00にデュッセルドルフにつき、3日には家がきまりました。2部屋で8帖と6帖バス・トイレ・冷蔵庫etc家具つきです。デュセルのまちはすごくいいところ。公園はものすごく大きくて、街の中にいっぱいあります。リスが公園の中を走っていたり、鳥がほんとにたくさんいます。近くの庭つきの家なんかにはうさぎもでてきたりして家の窓には（だいたいの家）花があります。旧市街は毎日、昼間から若い連中がビールをのみながらたむろしています。道は石でなかなかい街です。僕達も昼間からビール飲んでいます。

△デュッセルドルフ

植松奎二・和子▽

★造形作家の植松奎二さん夫妻（第2回神戸市文化奨励賞受賞者）は、九月一日に日本を旅立ち、さっそくのお便り。頑張っ

★世界中に、日本中に、美しい町はたくさんあるけど、女性が楽しめる町となると、これはもう我が神戸に限りません。その神戸市脈ともいえる「神戸っ子」は、私の敬愛する先輩のようなものです。

食べもの、人間、文化、すべてにファッション化している神戸っ子ってステキです。私はヘンな江戸っ子だとよくいわれるけど、私がヘンなんじゃないかと思っているのです。

今月はまだ、神戸っ子とどかない。編集者諸君、夏バテかな。

では、こちらから、神戸っ子の皆様に、毎度ご苦勞様と、初秋お見舞い申しあげます。

それにしても、私も、待たれる身になってみたいホントに！

△東京・石橋幸子▽

★九月号遅くなってスミマセンです。秋ともなり、風さわやかな神戸の街でハッキリと、十月・十一月となるべくお早くおとどけます。

△編集部▽

★毎月、神戸っ子を楽しみにしています。9月のはじめに神戸を訪れました。以前、西宮に住んでいた関係で、どちらかといえば新大阪駅を利用することが多かったのですが、新神戸駅と、まわりの緑が実に神戸らしいと感じるとともに、またまた、神戸の良さ、美しさに新たに触れたようです。

“神戸っ子”は、そこで生れた

神戸の匂いにつつまれた小さな美しいタウン誌。神戸の停車場。私設案内所（書）。

以前よりも“神戸っ子”到着が遅くなっていますね。どうなっているんですか。

△坂出市・明石和章▽

★お便りありがとうございます。新神戸駅へでられるのなら、一時間早く出て布引の滝と徳光院に立寄られてはいかが？またまた、ファンになれますよ。到着が遅れてカンニンです。姉妹誌だった「オール関西」の休刊などがありましてバタバタ。早く新幹線（？）なみにと努力いたします。

△編集部▽

★残暑がきびしくて、秋が来ないのなと心配になるくらいですが、コオロギの鳴き声が聞えますので秋だなーと思っています。神戸っ子”9月号ありがとうございます。神戸の十年何がどないに変わったか。私のような古い考えが流れている人間には、お二人の先生の対談は、いろいろと勉強になりました。

“日本の男よ、もっと父性愛に目覚めよ”本当に大事なことだと思います。ありがとうございます。

△宝塚市・丸本明子▽

★お月見がすんで、やと秋めいてきました。『男心と秋の空』『女心と秋の空』と愛をなくしてはならない世の中になって来たよう。でもコオロギや鈴虫たちは相も変らずいい声で鳴いています。

△編集部▽

★読者の皆さまへ

本誌に対して、また執筆者の方々へのお便りなどぜひどうぞ。







# 神戸のうまいもんとドリンクング

## ★日本料理

讃岐名代うどん **あこや亭**  
神戸市舞合区旗塚通7-5 TEL 231-6300  
トアロード店 TEL 391-2538  
兵庫駅前店 TEL 575-5306

和食 **くれなゐ**  
三宮生田新道浜側中央  
KCBビル2F TEL 331-0494

かつぱう **吉本**  
神戸市生田区加納町3丁目95-1  
(ニュージャパン別館前) TEL 241-3450

鍋もの・おむすび **味の郷**  
お茶漬・おはた  
神戸市生田区北長狭通1の20 TEL 331-3848  
三宮さんちカタウン TEL 391-5319

お茶漬・おむすび **ふる**  
神戸市生田区北長狭通2の1  
TEL 331-5535

たこ焼 **ちばな**  
三宮センター街(旧柳筋) TEL 331-0572

北海道郷土料理 **夷**  
神戸市生田区中山手通1丁目115  
生田区東門筋東門会館ビル1階  
TEL 331-7770

カニ料理 **婆娑羅(ばさら)**  
神戸市生田区北長狭通1丁目18  
三宮阪急西口北側レインボープラザ1・2F  
TEL 321-6363

天ぷらハウス **瀬戸**  
美術喫茶  
神戸市生田区山本通3丁目27の9  
瀬戸ビル1F TEL 221-6548

## ★西洋料理

レストラン **アポロン**  
ティー・バー  
神戸市舞合区八幡通5丁目6 TEL 251-3231

レストラン **鹿鹿 皮〈あらかわ〉**  
神戸市生田区中山手2-9 TEL 221-8547・231-3315

GALLERY & STEAK HOUSE **SAN-MON 三門**  
神戸市生田区中山手通2丁目98/99 TEL 331-5817

ステーキハウス **れんが亭**  
神戸市生田区下山手通2丁目34 TEL 331-7168

レストラン **セントジョージ**  
神戸市生田区北野町1丁目130 TEL 242-1234

レストラン **男爵**  
神戸市生田区中山手1-18  
山手第一ビル1F TEL 241-0778

maison de la mode **花屋敷**  
三宮フラワーロード市役所前 TEL 251-2109

鉄板グリル **きゃんどの**  
神戸市生田区北長狭通2-22 TEL 331-1183

レストラン **フィッシャー・マンズ・ポート**  
神戸港第4突堤ポートターミナル  
TEL 331-0301

居酒屋 **ロス・ヒターノス**  
フラメンコショー  
生田区下山手通3丁目22  
下山手セントラルハイツ  
TEL 391-5431

レストラン **ムーンライト**  
三宮・生田新道 TEL 331-9554  
TEL 331-2509

グリル・鉄板焼 **月六**  
BARBECUE & STEAK  
生田区元町通3丁目  
TEL 331-2108

レストラン **スイス・シャレー**  
神戸市生田区北野町3丁目48アニエルマンション1F  
TEL 221-4343

フランス料理 **ビストロ・デ・リオン**  
神戸市生田区山本通2丁目40-1  
TEL 221-2727

ピッツアハウス **ピノッキオ**  
神戸市生田区中山手2-101  
TEL 331-3545

レストラン **フック東店**  
神戸市生田区栄町1-5-3 TEL 321-3207

レストラン **ガル**  
生田区栄町5丁目1-7 西山ビル1F TEL 241-9025

ステーキハウス **グリル青山**  
神戸市生田区中山手通2丁目112-2(トアロード) TEL 391-4858

レストラン **フック神戸店**  
神戸市生田区栄町通2丁目24 TEL 321-3453

レストラン **元町フルーツホール**  
フランス料理  
元町1番街 TEL 331-1987

ピザ・パブ **ピザ・パテオ**  
神戸市生田区元町通1丁目49(元町1番街)  
TEL 331-9378

ナイトラ火 **の鳥**  
神戸市生田区中山手通1丁目27  
TEL 242-1330

スカンディナヴィア料理 **ゴックスタッド**  
世界の民族音楽の店  
生田区山本通3丁目18 回教寺院前  
TEL 242-0131

メキシコ小料理亭 **ティファナ**  
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12 パールコーポラスビル1F  
TEL 242-0043

ステーキ & ドリンク **黒牛**  
神戸市生田区中山手通2丁目39の36  
TEL 241-3739

ドイツ風音楽レストラン **コーベ・ローレイ**  
生田区北長狭通6丁目39  
TEL 371-0086

★喫茶 **宮水**  
コービー  
中山手通・神戸市生田区中山手通1丁目70  
TEL 221-1872・231-9524

喫茶 **ガーデニア**  
神戸市生田区東町113-1 大神ビル1F  
TEL 321-5114

珈琲 **モーツアルト**  
神戸市生田区山本通2丁目98グラントマンション1F  
TEL 241-3961

ティー & スナック **サボテン**  
神戸市生田区中山手通2丁目  
(神戸女子短大前) TEL 241-7060

ティー & スナック **エポック**  
神戸市生田区元町通3丁目(浜側)  
TEL 331-3694

★club **千**  
クラブ  
神戸市生田区下山手通2丁目21  
TEL 391-1077

c l u b **飛鳥**  
神戸市生田区中山手1丁目117  
TEL 331-7627

c l u b **小万**  
神戸市生田区東門筋中島ビル3F  
TEL 391-0638・4386

c l u b **さち**  
神戸市生田区中山手通2丁目75  
TEL 331-7120

c l u b **なぎさ**  
神戸市生田区北長狭通2の1 TEL 331-8626

c l u b **落〈ふき〉**  
神戸市生田区下山手通2丁目 TEL 391-1515

c l u b **Moon Light**  
BAR TEL 331-0886・391-2696  
Club TEL 331-0157

クラブ **るふらん**  
神戸市生田区北長狭通1丁目53 TEL 331-2854

★STAND & SNACK **ベルビュ・ドール**  
ドリンク & レストラン  
神戸市生田区中山手通2丁目101 大洋ビル2F  
TEL 321-5677

スタンド **かてな**  
生田区中山手通1丁目90 英健ビル1F  
TEL 331-1316

洋酒ハウス **雑貨屋**  
生田区下山手通2丁目8の6  
(生田新道相成タスクー横上る) TEL 321-0260

スタンド **グラムール**  
生田筋岸ビル地階 TEL 331-4637

スナック & ドリンク **姫**  
神戸市生田区中山手通1丁目18 TEL 221-1950

カクテルラウンジ **サヴォイ**  
高梁山側 テキの店北 TEL 331-2615

DRINKING IS AN ART OF LIFE **ウッドハウス**  
神戸市生田区下山手通1丁目32 PHONE 078-241-7320

スナック **ビジービー**  
神戸市生田区中山手2丁目 TEL 391-4582

居酒屋 **ボルドー**  
生田新道浜側中央KCBビルB1F TEL 331-3575

Wine and something **珍地理屋**  
神戸市生田区中山手通1丁目24-7  
大和ナイトプラザ1F TEL 242-0288

サロン **神戸時代**  
生田区中山手通1丁目28  
シャウトコトアビル TEL 242-3567

ナイトイン **おしゃれ貴族**  
神戸市生田区中山手通1丁目24-7  
大和ナイトプラザB1 TEL 242-1925

スタンド **くる実**  
生田区中山手通1の72  
TEL 331-6985

キャンティ **キ**  
本店洋酒の店 神戸市生田区北長狭通2ノ3  
tel 391-3060・391-3010  
北店スーパとパンの店 神戸市生田区下山手通3ノ8・9  
tel 331-3661

DRINK SNACK **スネカジリッ子**  
神戸市生田区下山手通2丁目  
水鏡ビルB1 TEL 391-8708

music spot **サントノール**  
トアロード店 生田区下山手通2丁目トア・ロード  
tel 391-3822

北野店 生田区中山手通1丁目24-7  
タイワナイトプラザ6F tel 221-3886

素舌洞 **でっさん**  
神戸市生田区北長狭通1丁目258  
TEL 331-6778

STAND **マシケナダ**  
生田区下山手通2丁目ちやいなタウン地下  
TEL 331-5587

スナック **GASTRO**  
神戸市生田区中山手通3-20  
トア・アメンション TEL 231-0723

ティー & パブ **バスチャール・リントン**  
生田区北長狭通2丁目(トアロード)  
TEL 332-1125

スナック **エドワーズ倶楽部**  
神戸市生田区北長狭通1丁目28  
ホワイトローズビル5・6F 生田新道 TEL 391-3300

サロン **アルバトロス**  
生田区中山手通1丁目24の7  
大和ナイトプラザ2F-B TEL (231) 3300

CAFE WHISKY **音楽の家 ETエトワTOI**  
神戸市生田区三宮町3丁目 三宮センター街西入口  
スカイドアビル3F TEL 332-1755

スナック **山荘**  
神戸市生田区北長狭通1丁目22  
TEL 391-5823

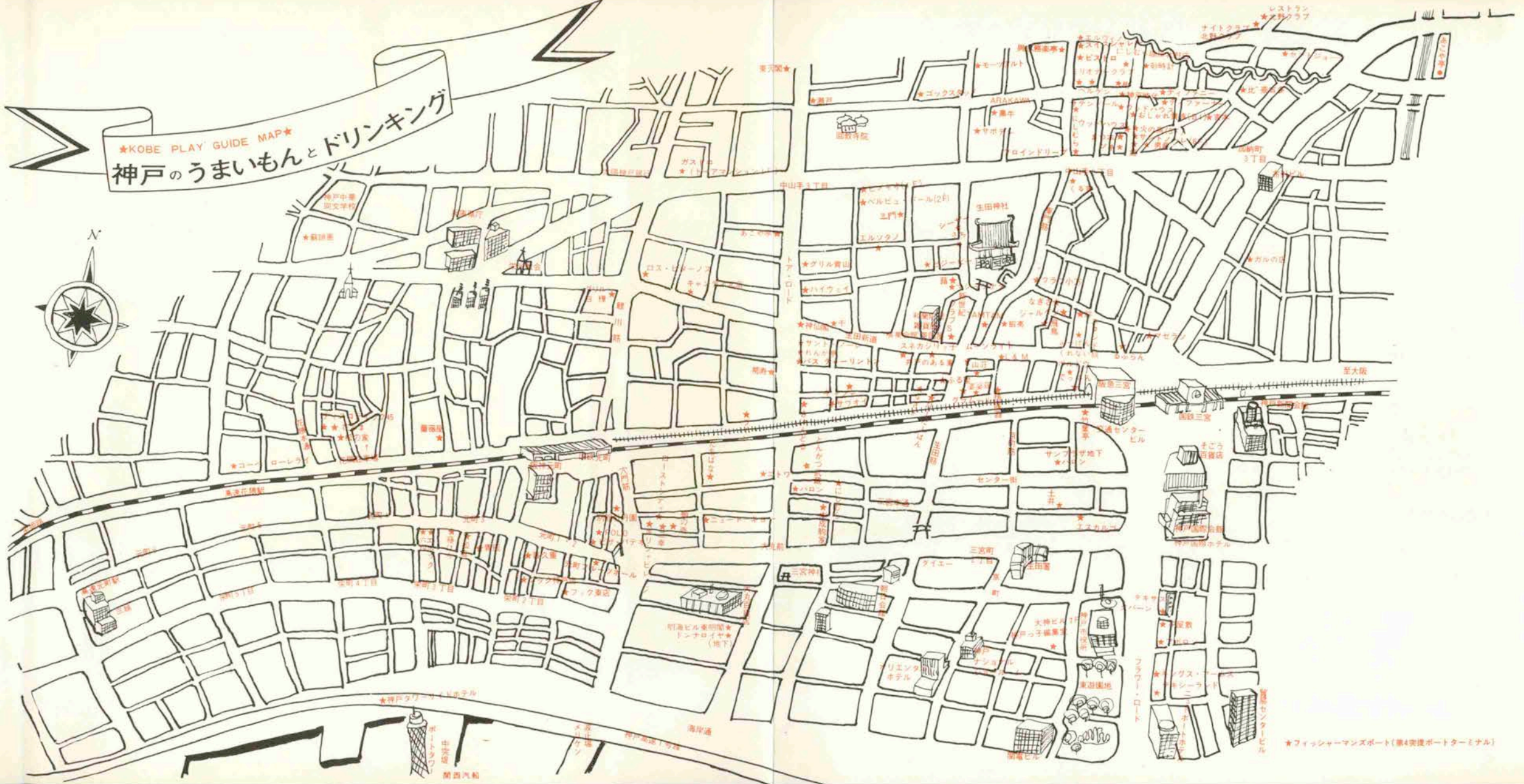
スタンド **紋**  
神戸市生田区北長狭通1丁目41-1 レンガ筋  
TEL 331-8858

スナック **興志務楽亭**  
神戸市生田区山本通2丁目60 パールライフB1  
TEL 242-1977

S N A C K L **8 M**  
生田区北長狭通1丁目25  
生田新道ビルB1  
TEL 321-3070

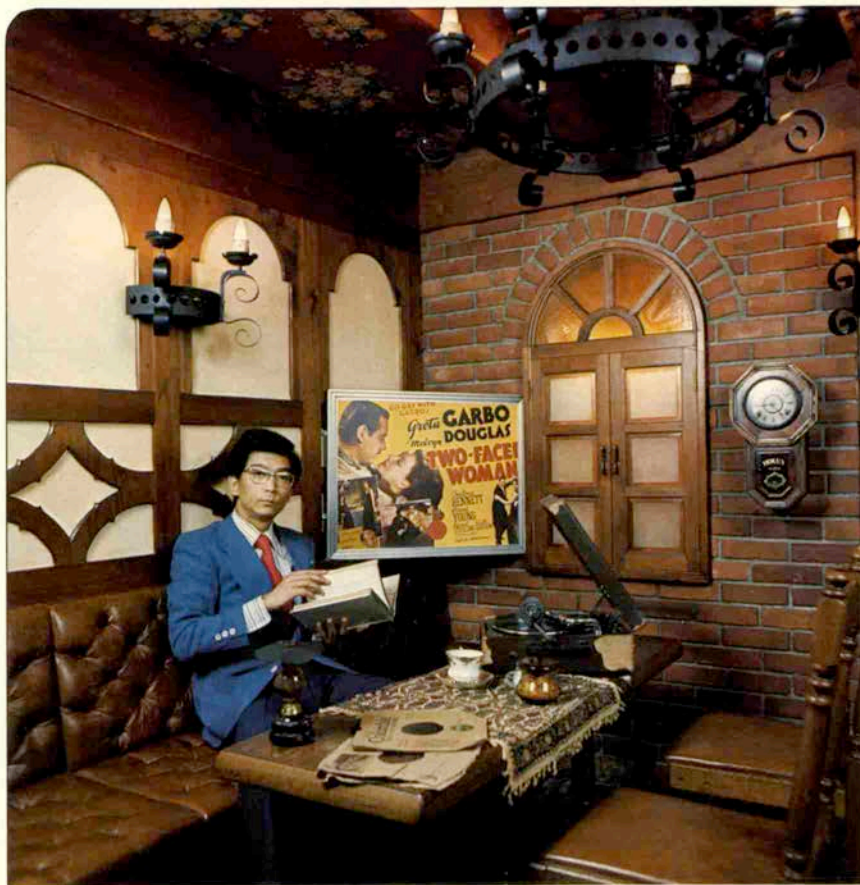


★KOBÉ PLAY GUIDE MAP★  
神戸のうまいもん＆ドリンキング



★フィッシャーマンズポート(第4突堤ポートターミナル)





# baLon antique series

## 33 蓄音器

中川 清さん

(大丸神戸店 宣伝部)

「ある年代の過去に自分を置いてみる。そしてその中に埋まっていくことによって、今の自分自身がよりわかるような気がします」という彼のコレクションは、今、確実にリズムを刻んでいくジャズでいう4ビートの時代である。流れる歴史の、その周期を探り、すべての動きとの因果関係を知ること、一歩先あるいはずっと長い将来を予測したい。そんなために過去の時代を順に追いつづける。

センター街店にて  
カメラ / 米田定蔵



# バロン

★英国風喫茶・レストラン 三宮さんプラザ店  
TEL 391-1758 AM11:00-PM9:00迄

★コーヒーショップ トア・ロード店  
TEL 391-1210 AM10:00-PM9:00迄

★コーヒーショップ センター街店  
TEL 391-1375 AM10:00-PM9:00迄

なぜか坂道があるきたくなる秋。

ふとめぐり逢えるおしゃれな品々。

嬉しさを胸に、またあるきたくなるサンプラザ&センタープラザ。

# 秋の買物・散歩

*Shopping is Fall.*

★事務と暮しを豊かにする

## ナガサワ

文具センター

センタープラザ1F ☎3213333

さんちかタウン店391/4712

24時間オープンなウインドウディスプレイは、  
趣好をこらしてとても楽しいのです。また神戸らしく舶来  
文具品を集めているので、思いがけない品選びができてユニーク。



★ポタン

## ピンク

センタープラザ店 センタープラザ2F

☎3321200608

スタイルパレス店 スタイルパレス1F

☎32111234

ジバンシイのスカーフ・香水・ベルト・傘な  
どをコレクションしたコーナーがバリの香り  
をのせてステキです。もちろん鉛筆は、舶来・国産を問わず豊富な品ぞろえ。



★お食事処

## 木瓜

サンプラザ地下 ☎3812427

甲南漬で有名な高嶋酒類食品販売が  
手がけているお店で、とっても家庭的  
な雰囲気な人気です。タタキ定食や天  
ぷら定食など季節の一品料理が、秋の  
たべものシーズンにもよく、おみやげ  
に甲南漬を手にとれるのもいいでしょう。



タタキ定食  
650円  
てんぷら定食  
500円



★舶来オリジナルボタン・アクセサリー  
洋裁材料

# マルダイ

三宮・京町筋 332-135006

鈕はシルエットの最後の仕上げ。今秋は天然素材のものが多くなり、貝・木などが、金属との組合せてでてきました。茶や、紺・黒と色ものと金属の組合せも定着しています。アクセサリーにも木彫や、オニツクスナゴールドなどがフレッツシユ。



★レディスウェア

# プチデイト

センタープラザ1F 332-28556

ヤングに人気のあるデイトは、スカートのよく揃っていて、色は、黒・茶の無地のもので、ウールギャバ、フレア・タイトのミディ丈が秋の傾向。ブラウスはテラーな感じで、ジーンズもあるヨ。



紫色の  
フレアースカートの  
トップもシガーデス

★ブレタシャツ&ネクタイ

# 大和屋シャツ

センタープラザ1F 331-60100

国際会館店/国際会館1F  
紳士シャツオーダー専門 31-02260

日本のシャツは、物語の歴史を持つ本格派の大和屋シャツが、ネクタイ(フランス・イタリイ・西陣織)とブレタシャツ(アシントン・英ノス・イス・ハウザマン/フェルノ・伊)のお店を九月十一日にOPENしました。



★パリの服飾大使館

# 装苑

センタープラザ2F

333-20388

大丸前 331-75000

白を基調にした大理石と透明なガラスの装い。ゴージャスなじゅうたんの(装苑)は、コウベのハイセンスをいかしたオリジナルファッションとクリスチャンディオール全商品の揃っています。本格派のコーディネート。



秋。 ロマンの夜。

なにげない語らい 吟味されたメニュー おしゃれなスペース。

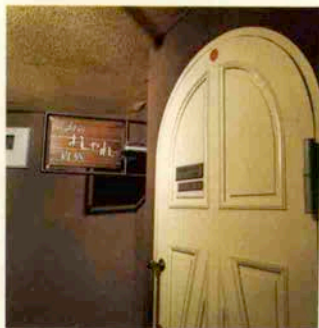


神戸市生田区中山手1丁目24ノ7

TEL 078 (241) 0980・(242) 1925

大和ナイトプラザBF

PM 6:00 - PM 12:00





秋のちくせんに常夏の島からお客さま——



小集会、誕生祝などのパーティーにご利用下さい

ちくせんミュージックタイム  
神戸のター坊による演歌熱唱

8:00pm~0:00am

●タヒチからのお客さまはセレスティナ・ドミニゴさん(左)とタイエ・マヌイヤさん



スナック **ちくせん**

生田区中山手通1丁目85(東門筋)中島ビル4F ☎331-3131

近藤正実・岩本文夫





PUB & RESTAURANT

UPLANDS

生田区加納町3丁目

1-34

☎ 241-8271



DRINKING IS AN ART OF LIFE

WOODHOUSE

生田区中山手通1丁目32

山内ビル

☎ 241-7320

KOBE DRINKING GUIDE

山崎  
ステーキハウス

生田区中山手通1丁目

前川ビル1F

☎ 391-3335



SATIN DOLL

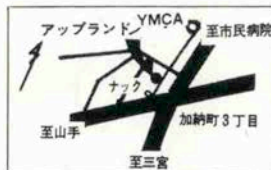
生田区中山手通1丁目57

☎ 242-0100



★ラグビーといえば英国ウェールズ。その強豪ぶりは先日のテレビでも感心させられました。そのウェールズでレフトウィングとして活躍していたのが“アップランド”のD.A.トーマスさん。彼は自身自負するバブ野郎ですが、本場の気安いバブの雰囲気とステキなミュージック（もちろんライブ）の流れる店、お客さまが大いに楽しく飲んだりしゃべったりできる店をということで“アップランド”を開きました。神戸っ子のセンスにピッタリのシャレたバブ&レストラン“アップランド”へぜひお立ち寄り下さい。

☆ランチタイム（11：00A.M.～2：00P.M.） ランチ¥400 コーヒ、紅茶各¥200 ☆ローストビーフ¥2,700 シェパーズパイ¥850 ステーク&キドニパイ¥600 コーニッシュパースティ（ミートパイ）¥600 フィッシュ&チップス¥500 J & B、O L D、G & G各¥400 ビール¥300  
平日11：00A.M.～3：00A.M. 日曜祭日6：00P.M.～0：00A.M. 無休



アップランド

## ★ウッドハウス・お店の人紹介第2弾

待てましたこの人、本名長谷川文弘、26歳、通称ハセ、マチャアキ、スキニーETC。神戸の若者が彼のことを知らなければぐりとんでもない程有名な。あの細い身体で人一倍あるバイタリティー、あらゆる層の女性に人気のある彼はにくめない程いい男である。ニヤッと笑って女を口説かせれば右に出る者なし。一度会っても10年来の友達になれるほど気さくな彼は“ウッドハウス”の名物男。ナニ……女の話、それなら長谷川君にきいてみな。いい答が返ってくるよ。家に帰れば幼稚園に通っている一人息子のまさき君のよきパパでもあります。

☆営業時間のお知らせ。平日／5：00P.M.～2：00A.M. 日曜／6：00P.M.～0：00A.M. 年中無休

ビール（小）¥300 水割り（オールド）¥400 フィズ¥500 おつまみ¥100 スパゲティ¥400 ビラフ¥400 ほか。



ウッドハウス

## KOBE DRINKING GUIDE



ヤマサキ

サテンドール



★日増しに秋の深まる季節になりました。さわやかな秋はまたステークのおいしい季節です。ステークハウス“山崎”へいらっしやいませんか。最上級の神戸肉と新鮮な生野菜をご賞味下さい。きっとご満足いただけるでしょう。また、落ち着いた雰囲気、それに、各種のワインも揃っていますので、ゆっくりとお食事を楽しんでいただけます。30名ほどのパーティーの予約も承っています。家族づれ、友達同士、グループなどの会合にぜひご利用下さい。

☆最上級神戸肉ステーキ¥5,000 サーロインステーキ¥3,000 テンダーロインステーキ¥3,000 車海老のバター焼き、アワビのバター焼き。ビール¥300 ボトル（D.L.D）¥5,000 ボトル（ホワイトホース）、ボトル（カティサーク）各¥7,000  
5：00P.M.～1：00A.M. 日曜日休み

★秋の夜、ジャズに酔い、酒に酔う。“サテンドール”では火曜を除く毎日（7：30P.M.～11：30P.M.）宮原透トリオが熱のこもったプレイをきかせています。また、月に一度はお客さまのリクエストによって一流プレーヤーのショータイム（予約制）を企画しています。最近ではピアノニスト菅野邦彦が来店。9時30分までの演奏予定が彼自身のりのって何と零時過ぎまで続演、“サテンドール”ならではの熱狂的なジャズセッションがくり広げられました。今後も本田竹曜、山本剛などのショータイムを予定しています。お好きなプレーヤーをどんどんリクエストして下さい。なお、“サテンドール”では20～50名様のパartyを承っております。お一人様3,500円（税込）で食事つき、フリードリンクです。  
☆ビーフシチュー¥1,200 スモークサーモン¥1,000 エスカルゴ¥1,000 チキンバスケット¥600 オードブル¥500  
6：00P.M.～4：00A.M.